とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都豊島区駒込２－２－３
園名	駒込第三保育園
法人	社会福祉法人　豊島区社会福祉事業団

令和８年度　５月 12 日(火)　対象：０歳児クラス

１．活動のテーマ

<テーマ>

感触・感覚遊び

<テーマの設定理由>

０歳児の子ども達はハイハイやつかまり立ちが始まったばかりで自分の意思で動けるようなったことで世界が広がり、色々な物に興味を持って探索活動を楽しんでいる。好きな玩具に手を伸ばし、【叩く・握る・つまむ・振る】など指先を使って遊ぶ姿も見られるようになってきている。また、棚でつかまり立ちをすると棚にあるビジーボードにも興味を示すようになる。子ども達の目に映る身の回りのものに興味を示し、手の全体や指で触ってみたいという好奇心を満たし、手や足で触る事で物が変化する楽しさを感じられるといいなと思う。感触遊びを通して五感の発達を大切にしていきたいと思う。

２．活動スケジュール

・ ５月　手の感触遊び　～触ってみる～
・ ６月　足の感触遊び　～乗ってみる～
・ ７月　水の感触遊び　～握る・潰して遊ぼう～
・ ８月　氷の感触、感覚遊び　～氷の冷たさ、固さを体感する～
・ ９月　音の感覚遊び　～音を鳴らして遊ぼう～

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ ５月　①棚にあるビジーボードを活用する。
　②マシュマロ粘土・スポンジ・ハイドロボール・スライム・ミニ風船などの素材をジップロックに入れて段ボールマットに貼りつける。
・ ６月　ゴザ・イスカバー・フットブラシ・ミニモップなどの素材を段ボールマットに貼りつける。
・ ７月　水と油が分離した物や水遊びの素材を段ボールマットに貼る。別に感覚遊びのマットも活用する。
　８月　７月の活動内容に氷を追加して用意する。
・ ９月　音が楽しめるように楽器を用意する

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

マシュマロ粘土・スポンジ・ハイドロボール・スライム・ミニ風船などの素材をジップロックに入れて段ボールマットに貼りつけたものを用意し、すくわくを行う。
写真　①：ミニ風船の段ボールマットを室内に置くと子ども達が初めて見るものに興味を示し集まってきた。
写真　②：素材の異なる段ボールマットを少し離れた所に置くことで混雑を避け、遊びやすくしてみる。
写真③④：離れている段ボールマットを寄せて、感触遊びのコーナーを作ってみる。他の玩具で遊びながらも気になるとコーナーに来て遊ぶ姿が見られた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

写真①：ミニ風船のマットにうつ伏せで乗る、上に座るなどして気持ち良さそうにしている。
写真②：初めてのものに興味津々でマシュマロ粘土・スポンジ・ハイドロボール・スライムをまんべんなく触っている。
写真③：星形のスポンジを食べようとして、口を何度も近づけている。
写真④：ハイドロボールの中に混じっている小さなスポンジを見つけると指先で押していた。

【①水風船】

【②ハイドロボール】

【③星食べよ！】

【④ハイドロボール】

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

様々な素材をジップロックに入れて貼った段ボールマットを用意すると、高月齢児中心に感触遊びを楽しんでいた。最初は混雑を避けて遊びやすいように２枚ある段ボールマットを離して置いたが、他の遊びも始まった為、後半は離れている段ボールマットを寄せて感触遊びのコーナーを作ってみた。すると、他の玩具で遊びながらも、段ボールマットが気になるとコーナーに来て遊ぶ姿が見られた。

すくわく実施日だけでなく、日頃の保育の中に一つのコーナーとして取り入れても良いと感じたので行ってみる。また、日々の子どもの様子を見ながら別の素材を使った感触遊びを展開していけるといいなと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都豊島区駒込２－２－３
園名	駒込第三保育園
法人	社会福祉法人　豊島区社会福祉事業団

令和８年度　　６月９日(火)　　対象：０歳児クラス

１．活動のテーマ

<テーマ>

感触・感覚遊び

<テーマの設定理由>

０歳児の子ども達はハイハイやつかまり立ちが始まったばかりで自分の意思で動けるようなったことで世界が広がり、色々な物に興味を持って探索活動を楽しんでいる。好きな玩具に手を伸ばし、【叩く・握る・つまむ・振る】など指先を使って遊ぶ姿も見られるようになってきている。また、棚でつかまり立ちをすると棚にあるビジーボードにも興味を示すようになる。子ども達の目に映る身の回りのものに興味を示し、手の全体や指で触ってみたいという好奇心を満たし、手や足で触る事で物が変化する楽しさを感じられるといいなと思う。感触遊びを通して五感の発達を大切にしていきたいと思う。

２．活動スケジュール

- ５月　手の感触遊び　～触ってみる～
- ６月　足の感触遊び　～乗ってみる～
- ７月　水の感触遊び　～握る・潰して遊ぼう～
- ８月　氷の感触、感覚遊び　～氷の冷たさ、固さを体感する～
- ９月　音の感覚遊び　～音を鳴らして遊ぼう～

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ５月　①棚にあるビジーボードを活用する。
  ②マシュマロ粘土・スポンジ・ハイドロボール・スライム・ミニ風船などの素材をジップロックに入れて段ボールマットに貼りつける。
- ６月　ゴザ・イスカバー・フットブラシ・ミニモップなどの素材を段ボールマットに貼りつける。
- ７月　水と油が分離した物や水遊びの素材を段ボールマットに貼る。別に感覚遊びのマットも活用する。
- ８月　７月の活動内容に氷を追加して用意する。
- ９月　音が楽しめるように楽器を用意する

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・椅子カバー（ビニール袋を入れる）、ミニマット、ゴザ、モップ、シリコンフットブラシ、フェルトコースター、アニマルスポンジを不織布に縫いつけ、段ボールマットに貼って用意した。
・段ボールマットを置いてみるが、気付いていないこともあり初めは興味を示していなかった。保育士が月齢の高い子どもを誘い遊び始めると、他の子ども達も集まり個々に触り始める。初めてのものを触ることに抵抗を感じていた子どももいたが、保育士が一緒に触れることで少しずつ慣れていく様子が見られた。また、歩行が出来る子は保育士と手を繋いで段ボールマットの上を歩き足裏で感触を楽しんだ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

写真①：全身を使って素材に触れている。
写真②：ただ段ボールマットの上を進むのではなく、コースターやスポンジの上に手を合わせながらハイハイしている。
写真③：保育士と手を繋ぎ、段ボールマットの上を歩いていたが、最後のフットブラシに足を乗せると嫌がる姿があった。その足をどこに置こうか迷う姿があった。
写真④：足で踏んだときに刺激の強かったフットブラシは手で触り、感触を確かめている。

【写真①】

【写真②】

【写真③】

【写真④】

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

今回は足の感触遊びが楽しめる素材を用意した。普段触り慣れていない形や硬さのものは触り心地が悪かったようで大人と同じように嫌がる姿があった。それでも気になるようで少し離れた位置でその素材をじっと見たり慎重に指でつつくように触る姿や指差しをして気になった素材を保育士にアピールする姿も見られた。また、中・低月齢児の子どもはどのように遊ぶのか注目して見ていたが四つ這いで同時に様々な素材に触れたり、素材の上に手を合わせてハイハイをしたりと個々で異なる遊び方が見られ面白かった。

気になる物や気になる素材も子ども達の表情や仕草で感じ取る事が出来たので、次回は触ると形が変わるものや冷たさを感じるものなど取り入れてみたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都豊島区駒込２－２－３
園名	駒込第三保育園
法人	社会福祉法人　豊島区社会福祉事業団

令和８年度　　７月２日(木)　　対象：０歳児クラス

１．活動のテーマ

<テーマ>

感触・感覚遊び

<テーマの設定理由>

０歳児の子ども達はハイハイやつかまり立ちが始まったばかりで自分の意思で動けるようなったことで世界が広がり、色々な物に興味を持って探索活動を楽しんでいる。好きな玩具に手を伸ばし、【叩く・握る・つまむ・振る】など指先を使って遊ぶ姿も見られるようになってきている。また、棚でつかまり立ちをすると棚にあるビジーボードにも興味を示すようになる。子ども達の目に映る身の回りのものに興味を示し、手の全体や指で触ってみたいという好奇心を満たし、手や足で触る事で物が変化する楽しさを感じられるといいなと思う。感触遊びを通して五感の発達を大切にしていきたいと思う。

２．活動スケジュール

・ ５月　手の感触遊び　～触ってみる～
・ ６月　足の感触遊び　～乗ってみる～
・ ７月　水の感触遊び　～握る・潰して遊ぼう～
・ ８月　氷の感触、感覚遊び　～氷の冷たさ、固さを体感する～
・ ９月　音の感覚遊び　～音を鳴らして遊ぼう～

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ ５月　①棚にあるビジーボードを活用する。
　　②マシュマロ粘土・スポンジ・ハイドロボール・スライム・ミニ風船などの素材をジップロックに入れて段ボールマットに貼りつける。
・ ６月　ゴザ・イスカバー・フットブラシ・ミニモップなどの素材を段ボールマットに貼りつける。
・ ７月　水と油が分離した物や水遊びの素材を段ボールマットに貼る。別に感覚遊びのマットも活用する。
・ ８月　７月の活動内容に氷を追加して用意する。
・ ９月　音が楽しめるように楽器を用意する

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・5 月に活用した感覚遊びのボードに水が入ったイラストやベビーオイルと水、食紅が入った袋を更に張り付けて、水の感触や水が動く感覚を楽しめるようにした。
・更に感触遊びマットを用意し、触ると色が散ったり変わったりする感覚を個々に楽しんでおり、点々と置かれたマットをハイハイで移動して遊んでいた。子ども達がマットに飽きてきた頃、マットをサークル状に並び替えるとマットの上をハイハイで 1 周する姿が見られる。一方、初めて見る感覚遊びマットに警戒た表情を浮かべ、触る事を嫌がる子どももいた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

写真①：水の中のイラストを触ろうとしたり、水に浮いているフェルトボールを掴もうとする。触ると、水が動いて形が変わる感覚や、音、冷たさを楽しむ姿がある。
写真②： ベビーオイルと水、食紅が入った袋を上から押して分離する様子を楽しみ、繰り返し押している。
写真③： 感覚遊びマットを点々と置いてみる。保育士が手で押す姿を見て、子ども達も手を乗せて上に乗っている。また、ハイハイで違う色のマットへ移動している。
写真④： マットをサークル状に並び替えると、その上をハイハイで 1 周していた。

【写真①】

【写真②】

【写真③】

【写真④】

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・水と感覚遊びマットに好みが分かれたが、個々に 30 分程度遊ぶ姿があり、とても興味を持って遊んでいる事が分かった。水を使った感覚遊びはタライで水遊びをするイメージだが、水遊びが難しい低月齢児も遊べるように今回は室内でも出来るものを考えて取り組む事にした。そうすることで水遊びの幅が広がった。
・水に触ると揺れる水の動きやその時に出る水の音などを飽きず楽しんでいた。また、興味を持った所に自分で行き、満足いくまで触っていた。感触遊びマットも移動手段によって、置き方を変えるだけで楽しみ方も増えて遊び方が広がる事が分かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都豊島区駒込２－２－３
園名	駒込第三保育園
法人	社会福祉法人　豊島区社会福祉事業団

令和８年度　　８月７日(金)　　対象：０歳児クラス

１．活動のテーマ

<テーマ>

感触・感覚遊び

<テーマの設定理由>

０歳児の子ども達はハイハイやつかまり立ちが始まったばかりで自分の意思で動けるようなったことで世界が広がり、色々な物に興味を持って探索活動を楽しんでいる。好きな玩具に手を伸ばし、【叩く・握る・つまむ・振る】など指先を使って遊ぶ姿も見られるようになってきている。また、棚でつかまり立ちをすると棚にあるビジーボードにも興味を示すようになる。子ども達の目に映る身の回りのものに興味を示し、手の全体や指で触ってみたいという好奇心を満たし、手や足で触る事で物が変化する楽しさを感じられるといいなと思う。感触遊びを通して五感の発達を大切にしていきたいと思う。

２．活動スケジュール

・ ５月　手の感触遊び　～触ってみる～
・ ６月　足の感触遊び　～乗ってみる～
・ ７月　水の感触遊び　～握る・潰して遊ぼう～
・ ８月　氷の感触、感覚遊び　～氷の冷たさ、固さを体感する～
・ ９月　音の感覚遊び　～音を鳴らして遊ぼう～

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ ５月　①棚にあるビジーボードを活用する。
　　②マシュマロ粘土・スポンジ・ハイドロボール・スライム・ミニ風船などの素材をジップロックに入れて段ボールマットに貼りつける。
・ ６月　ゴザ・イスカバー・フットブラシ・ミニモップなどの素材を段ボールマットに貼りつける。
・ ７月　水と油が分離した物や水遊びの素材を段ボールマットに貼る。別に感覚遊びのマットも活用する。
・ ８月　７月の活動内容に氷を追加して用意する。
・ ９月　音が楽しめるように楽器を用意する

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・7月に作った水遊びの感覚遊びボードや感触遊びマットも引き続き活用し、楽しめるようにする。
・今回は氷の感覚遊びがテーマだが、先月同様に月齢に関わらずみんなが室内でも遊べるように【ゴム手袋を使って凍らせたもの・四角や星形の玩具をジップロックの袋の水に入れて凍らせサイズの大き目のもの・チェーンリングをカップに 2/3 入れて凍らせ、手持ちがあるもの・水風船を使って球体のもの】を用意してみた。片面に氷のコーナー、もう片面に感覚マットやボードのコーナーを作り、行き来を自由にして遊べるようにすると個々にやりたいことを楽しめ、飽きずに 45 分程度遊んでいる。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

興味津々に氷を触り、冷たさを感じると顔をゆがめて氷を手放し、冷たさが緩和されるとまた氷を触る…を繰り返しながらよく遊んでいた。
写真①：初めての氷なので不思議そうに見ていたり、手を伸ばして欲しがる。
写真②：氷の中に入った玩具やチェーンリングを不思議そうに触っている。
写真③： カップに入った氷を取ろうと夢中なる。
写真④：カップからチェーンリングが出てくると表情がパッと変わり、声をあげて喜ぶ。

【写真①】

【写真②】

【写真③】

【写真④】

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

◎【氷の感触、感覚遊び】と【今までの感覚遊びマット】の両方を用意することで興味のある方を選ぶことができ、飽きずによく遊んでいた。高月齢児の中には氷は冷たいが感覚マットは冷たくない…に気付く子どももおり、驚かされる場面があり、月齢による反応の違いを見ることが出来た。先月同様に月齢に関係なく室内で氷遊びをすることで、全員が遊べたことは良かった。
◎氷の中に入っていた玩具を取り出そうと試行錯誤する姿を想像していたが、実際に保育士が氷の中の玩具を取り出しても氷の中の玩具は取れる物と思っていなかったようだった。今日が氷に触れる体験が初めてで、氷の不思議さを沢山体験していることが子ども達の反応から伝わった。また、氷を口に入れようとする姿を予想していたが、口に入れる事はほとんどなく、溶けた水で遊ぶ姿も意外だった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都豊島区駒込２－２－３
園名	駒込第三保育園
法人	社会福祉法人　豊島区社会福祉事業団

令和８年度　９月 25 日(金)　対象：０歳児クラス

１．活動のテーマ

<テーマ>

感触・感覚遊び

<テーマの設定理由>

０歳児の子ども達はハイハイやつかまり立ちが始まったばかりで自分の意思で動けるようなったことで世界が広がり、色々な物に興味を持って探索活動を楽しんでいる。好きな玩具に手を伸ばし、【叩く・握る・つまむ・振る】など指先を使って遊ぶ姿も見られるようになってきている。また、棚でつかまり立ちをすると棚にあるビジーボードにも興味を示すようになる。子ども達の目に映る身の回りのものに興味を示し、手の全体や指で触ってみたいという好奇心を満たし、手や足で触る事で物が変化する楽しさを感じられるといいなと思う。感触遊びを通して五感の発達を大切にしていきたいと思う。

２．活動スケジュール

・ ５月　手の感触遊び　～触ってみる～
・ ６月　足の感触遊び　～乗ってみる～
・ ７月　水の感触遊び　～握る・潰して遊ぼう～
・ ８月　氷の感触、感覚遊び　～氷の冷たさ、固さを体感する～
・ ９月　音の感覚遊び　～音を鳴らして遊ぼう～

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・ ５月　①棚にあるビジーボードを活用する。
　②マシュマロ粘土・スポンジ・ハイドロボール・スライム・ミニ風船などの素材をジップロックに入れて段ボールマットに貼りつける。
・ ６月　ゴザ・イスカバー・フットブラシ・ミニモップなどの素材を段ボールマットに貼りつける。
・ ７月　水と油が分離した物や水遊びの素材を段ボールマットに貼る。別に感覚遊びのマットも活用する。
・ ８月　７月の活動内容に氷を追加して用意する。
・ ９月　音が楽しめるように楽器を用意する。

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

日頃から高・中月齢児はつかまり立ちが出来るようになると棚についたビジーボードでよく遊んでいた。そこで腹這いで遊んでいる低月齢児用に床に置いて遊べるビジーボードを作ってみることにすると鈴が入っているので引っ張る度に音がなり、月齢に関係なくみんなが音を鳴らして楽しむ姿があった。

今月はタンバリン・鈴・カスタネット・太鼓などの楽器を用意し、自由に音を鳴らしながら音の感覚遊びを楽しめるようにしてみた。一度に全部を出さずに一つずつ楽器を増やしていくと色々な楽器に興味を示しながらも個々にお気に入りの楽器が見つかっていく。自由に音を鳴らして楽しみ、音楽に合わせて鳴らす姿が見られた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

写真①：“おもちゃのチャチャチャ”が流れるとタンバリンを振って音を出している。
写真②：初めてのバチに興味を示し、順番にバチを持ち太鼓を叩いてみる。太鼓を気に入りバチを離したがらない。
写真③：沢山の楽器が出て、触っていくと個々にお気に入りの楽器が見つかる。
写真④：“おもちゃのチャチャチャ”が再び流れるとタンバリンを両手に持ち、全身を使ってリズムに乗っていた。

【写真①】

【写真②】

【写真③】

【写真④】

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

初めて見る楽器に興味津々で手を伸ばして積極的に触る子どもや他児が遊ぶ様子を見て慎重に触れる子どもなど様々な姿が見られた。初めは保育士の真似をして音を鳴らしていたが、色々な楽器を触っていくうちに個々でお気に入りの楽器を見つけて楽しんでいる。また、聴き馴染みのある音楽が流れると音を鳴らし、リズムに乗って楽しんだり、太鼓ではバチを使って音を出すだけでなく、手のひらで叩いたり、手をグーに変えて叩く姿があり、叩きやすさも含めて色々な音の変化を楽しんでいるのかなと感じた。

今回楽器を取り入れてみると振るだけでなく身体全身を動かし音楽を鳴らすことを楽しんでいた。子ども達が自由に使って楽しめるよう、日頃から保育環境の中に楽器を用意していけるとも良い。